

人ノタメニ命ヲ遁シメン料ナリ、之ヲミダリニ捕ヘテ美味ノ設ニスルコトコソ、天ニ憎レ神ニ容ラレザルノ端ナルベケレバ、其功能ヲ求メテ、人ノタメニ助ケトナランニ於テハ、神ノ賜何カ過之ヤ、コレヲトメ玉ヲ始ハ、日本書紀天武天皇四年四月庚寅詔諸國曰、自今以後、中四月朔以後九月三十日以前莫置比滿沙伎理梁、且莫食牛馬犬猿雞之宐、以外不在禁例、若有犯者罪之云云、神代ニ不忌之、人皇ニ至テ三十九代持統天皇マデ此制ナキニ、四十代天武天皇ニ至テ、夏秋ハ人ノ性ニ合ガタキヲ以止之、且耕作ノ水用ノタメ梁ヲモ禁ジ玉フナルベシ、續日本紀聖武天皇天平十三年二月戊午、詔曰、牛馬代人勤勞養人、因茲先有明制、不許屠殺、今聞國郡未能禁止、百姓猶有屠殺、宜其有犯者、不問陰贖、先決杖一百、然後科罪、誠ニ牛馬ハ人用ヲ扶ル物ナレバ、此詔旨宜ナリ、然レドモ猪鹿ハ制ノ限ニアラズ、其證文ハ、續日本後紀仁明天皇承和十三年正月庚寅、散位從四位上伴宿禰友足卒、傳曰、友足爲人平直、不忤物情、頗有武藝、最好鷹犬、與百濟勝義王同時獵狩也、但其用心各不同、其勝義王獲鹿、不必分其肉、友足獻御贄、餘徧遺諸大夫、一麕不留云々、是ヲ以天子モ猶鹿肉ヲ食シ玉フコトヲ知ベシ、

〔孝經樓漫筆三〕肉食

五辛酒肉の禁忌、報應經に、四十九日、僧祇律に、七日、南海傳に、五辛七々日、觀佛三昧經、大蒜九十日、肉食七十日、魚肉三十日、飲酒七日、女人交三日、五辛九十日、善集經、食鳥者五十日、

〔嬉遊笑覽^十飲^上食^し〕、とはもつはら猪鹿をいふ、天武帝四年、莫食牛馬犬猿雞之宐、以外不在禁例、云、上つ代は天子も聞しめしぬれど、中古より穢に准へたり、續古事談^四、兵庫頭知定といふ陪從

が、娘に八幡の神つきて、詫宣ある處、蒜鹿さらにくふべからずとも有も、この知定なども日頃鹿をくひけるを誠むとなり、江談^二、喫鹿宐、當日不可參内之由、見年中行事障子、而元三之間、供御藥御

齒固、鹿或猪盛之也、近代以雉盛之也、類聚雜要、供御齒固鹿宐、代、又上古明王常膳に用給、又大饗用水鳥猪宐、代、用雉とあり、